

獣医師 脇田です。

ペットが突然倒れたり、激しく震え出したりすると、誰しもパニックになってしまうものです。それは「発作」と呼ばれる症状かもしれません。発作について知っておくと、急に遭遇したときにも落ち着いた対処がしやすくなります。また、発作を起こしているペットに対してすぐに取りってもらいたい対処もあります。今回の記事は、発作がどういうものか、ペットが発作を起こしたときの対応について説明していきます。



1. 発作って？

発作とは、脳の神経が一時的に異常な興奮を起こすことで生じる症状です。突然起こり数秒～数分で自然におさまることが多いですが、見た目が激しいことも多いためとても驚かれると思います。

2. 種類と症状

発作には大きく分けて2つのタイプがあります。

全般性発作	焦点性発作
	
突然倒れる 手足のバタバタ 体の硬直 意識消失、失禁、よだれ	顔の一部がピクピクする 片足だけのけいれん 虚空を見つめる 反応が鈍い

3. 原因

原因は年齢や体調によってさまざまです。

脳の病気 	脳以外の病気 
特発性てんかん（原因不明のてんかん） 脳腫瘍 脳梗塞 脳出血 脳炎	低血糖 肝臓・腎臓疾患 内分泌疾患 電解質異常 中毒（チョコレート・キシリトールなど）

※若齢犬では「特発性てんかん」が多いですが、高齢犬では何かしらの異常所見が認められる可能性が上がります。

4. 発作が起きた時どうする？

飼い主様の冷静な対応が、その後の診断に大きく役立ちます。

発作に遭遇したらまずは深呼吸をして、落ち着いて以下の内容を確認しましょう。



- ・ 時間を計る：何分続いたかが診断や治療の重要な鍵となります。
- ・ 安全の確保：周りの家具など、ぶつかって危険なものをどけます。
- ・ 動画の撮影：スマホで発作の様子を撮影してください。
- ・ そっと見守る：脳が興奮状態にあるため、静かに見守ります。



- ・ 口に手を入れない：無意識に噛まれ、大怪我をする恐れがあります。
- ・ 体を抑えつけない：骨折や脱臼、窒息の原因になることがあります。
- ・ 体を揺さぶる：刺激を与えると発作が長引く場合があります。

5. すぐに病院へ連絡すべき「緊急サイン」

以下の場合、夜間でも至急受診が必要です。

- ・ 5分以上発作が続いている（重積発作）
- ・ 1日に何度も繰り返す（群発発作）
- ・ 発作が終わっても意識が戻らない
- ・ 初めての発作

6. 病院でできる検査

松原動物病院では、症状の原因を正しく把握するために以下のような検査を行います。

- ・ **血液検査**：代謝性疾患（内臓の異常やホルモンの問題など）を除外するため
- ・ **神経学的検査**：神経系の異常の有無や病変部位の推定をするため
- ・ **画像検査（必要に応じて）**：レントゲン検査、超音波（エコー）検査

以下のような専門的な検査が必要と判断された場合は、二次診療施設などの専門病院をご紹介します。

- ・ MRI 検査
- ・ 脳波検査
- ・ 筋電図などの電気生理学的検査

7. 治療について

特発性てんかんなどの場合、目標は「発作をゼロにする」ことではなく、「発作の回数と重症度を減らし、生活の質（QOL）を維持すること」を第一に考え、お薬の調整などを行っていきます。

もし原因疾患がある場合は、見つかった疾患に対して適切な治療をしていくことになります。

8. 診療時に教えていただきたいこと

正確な診断のため、以下のメモや動画をご持参ください。

- ・ いつ起きたか
- ・ 何分続いたか
- ・ 前後の様子
- ・ 撮影した動画

最後に

発作は突然のことで、ご家族の不安は計り知れないと思います。しかし、適切なコントロールによって発作とうまく付き合いながら元気に過ごしているわんちゃん・ねこちゃんはたくさんいます。

少しでも「おかしいな」と感じたら、悩まずにいつでも当院へご相談ください。

